

【講義Ⅰ：薬事関係法規について】

Q. 包括ケアがどんどん必要になるに当たって、私たちに今1番求められるものはなんですか？

⇒今後、患者さんは、地域で外来、在宅医療、介護施設など様々な療養環境をその時の病状に併せて選択し、シフトしていくことが考えられ、そういった中で、薬局は地域包括ケアシステムを担う一員として、医療機関を始めとした関係機関と連携しつつ、安全かつ有効な薬物療法を切れ目なく提供することが求められます。

この求めに応えるためには、多種多様な業務を行う必要がありますが、全ての薬局が全ての業務を行うことは非常に難しいことから、地域の薬局が分担・連携して対応することも必要になってきます。

そこで、それぞれの薬局がその実情に応じて、包括ケアシステムにおいて担う機能又は優先的に取り組む機能を定め、その機能を果たすために、調剤補助業務従事者を含め全て職員がそれぞれの果たすべき役割を理解し、全うしていくことが重要と考えます。

【講義Ⅲ：未来の薬局へのDX化】

Q. 電子お薬手帳のおすすめのメーカーってありますか？

⇒電子お薬手帳のおすすめ（推奨メーカー）というのは特にありません。

様々なメーカーがアプリ等を提供していますが、患者側のメリット（使いやすさなど）、薬局側のメリット（レセコン等のシステム互換性など）によっても選択肢は変わります。

また、電子版お薬手帳には、マイナポータルと連携した機能を有するものもあります。

マイナポータルとの連携ができるお薬手帳アプリであれば、マイナポータルから閲覧できる、各医療機関・薬局で交付された薬剤の記録をアプリに呼び出すことができますので、そういったアプリをお勧めします。